

れいわ ねん どくにたちしじりつしえんきょうぎかいぜんたいかい  
令和6年度国立市自立支援協議会全体会

にちじ  
日時：令和7年3月18日（火）午後6時～8時

ぼしよ しやくしよ かい だい かいぎしつ  
場所：市役所3階 第1・2会議室

じむきょく みなさま ていこく れいわ ねん どくにたちしじりつしえんきょうぎかいぜんたいかい  
【事務局】 それでは、皆様、定刻となりましたので、これより令和6年度国立市自立支援協議会全体会

かいさい おち  
を開催させていただきますと思います。

みな いそが あつ ねが  
皆さん、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

てもと しりょう かくにん みなさま てもと こんかい しゅるい しりょう い  
まずは、お手元の資料の確認からさせていただきます。皆様のお手元に、今回6種類の資料が行ってい

おも したい さんかしゃめいぼ しりょう だい かいちいきかだいきょうぎぶかい きょうぎじこう  
ると思います。まずは、次第です。参加者名簿。そして、資料①、第1回地域課題協議部会 協議事項

しりょう だい かいちいきかだいきょうぎぶかい きょうぎじこう しりょう ひょう えー  
まとめ。資料②、第2回地域課題協議部会 協議事項まとめ、資料③、スクリーニング表－Aグルー

よう しりょう ひょう ひー よう ぜんぶ しゅるい みなさま てもと  
プ用一、資料④、スクリーニング表－Bグループ用一ということで、全部6種類です。皆様、お手元

い ぶそく  
に行っていますでしょうか、不足はないでしょうか。ありがとうございます。

じりつしえんきょうぎかい はじ おち こんかい かいさい あ  
では、自立支援協議会を始めさせていただきますと思うんですけども、まず今回の開催に当たり

れいわ ねん ど ぜんたいかい こんかい し かこ すわ  
まして、令和6年度の全体会になります。今回口の字で囲んでいただいているところにお座りいただ

みなさま じりつしえんきょうぎかい こうせいいん し せっちようこう もう  
いている皆様は、自立支援協議会の構成員です。市のほうで設置要綱というものを設けているんです

こうせいいん いち かたがた わたし すわ たて  
けれども、そこでいう構成員という位置づけの方々になります。私が座っている縦ラインが、いわゆ

じむきょくがわ じむきょくがわ こうせいいん かたち わ じょうきょう  
る事務局側といいます。事務局側と構成員という形で2つに分かれているような状況です。

せっちようこうじょう ぜんたいかい こうせいいん めいもない そしき めいき  
設置要綱上で、全体会は構成員20名以内をもって組織することと明記されておりまして、まさに

この全体会という場を20名以内の構成員をもって組織するということで、今回口の字でお集まり

いただいた皆様が、その構成員として事前に調整させていただいた上でお集まりいただいたというこ

とでございます。なお、事前に承諾書を郵送させていただいておりますので、もう既に回収をさせ

ていただいているかと思うんですけども、そちらを後ほど御提出いただければと思います。

この全体会なんですけれども、これまで、毎年、年に1回、部会の報告をするような場として機能し

てきました。私が、障がいしゃ支援課に異動してきたのが令和4年度なので、4年度と5年度、そ

れぞれ年に1回ずつ全体会の場の中で部会の活動報告をやってきた。これまで、国立市には4つの部会

があったんです。その部会ごとにテーマを分けて、ある部会は安心、安全、防災のことについて話し

ましようねとか、ある部会は、お仕事、就労について話しましようねと。これは、障がいのある方が

地域で抱えている課題、例えば仕事だったら仕事部会、その仕事、就労における障がいのある方が

抱えている地域の課題について、仕事部会という場で集まって皆さんで話をしようねというイメージ

でこれまでやってきました。

それをちょっと1度それぞれの部会を機能の在り方といいますか、話し合っている内容だったり

か、進み具合、それがそれぞれの部会によって様々だったんです。なので、ここで在り方をもう1度

見直そうというような話に令和4年度からなり、令和4年度、5年度で2か年度かけて、どういうや

り方がいいのかについて、この全体会の場もそうですけれども、我々事務局側でも集まって、どうい

うふうにしたら国立の自立支援協議会はよくなっていくだろうねという話をさせていただく中で、

今回、令和6年度から、新たなメンバーとして、今日お集まりいただいた構成員の皆様で構成する

ぜんたいかい れいわ ねんど いた しだい  
全体会として、令和6年度スタートするに至った次第でございます。

こうせいいん みなさま じぜん しりょう そうふん じりつしえんきょうぎかい ぜんたいかい  
構成員の皆様には事前に資料を送付させていただいております、まさに自立支援協議会の全体会

む じぜんせつめいしりょう おも きさい  
に向けて、事前説明資料をつけさせていただいたかと思うんですけれども、そこに記載があると

じりつしえんきょうぎかい ちいきかだいきょうぎぶかい  
おり、自立支援協議会というのはこういうもので、地域課題協議部会というものはこういうものです

ぜんたいかい いち きさい おも  
と。あとは、全体会の位置づけについても記載をさせていただいたかと思えます。

そ きょう とうねんどおこな ちいきかだいきょうぎぶかい かつどうほうこく  
そちらに沿って、今日は、当年度行った地域課題協議部会のまず活動報告が1つのメインテーマで

め ちいきかだいきょうぎぶかい こんご ほうこうせい  
す。2つ目のテーマが、この地域課題協議部会というものの今後の方向性について、どういうふう

すすむ ほうこうせい ごいけんとう うかが め  
進めていけばいいだろうかという方向性についての御意見等をお伺いするところ、2つ目の

テーマとなってきております。

さっそく しだい そ すず おも  
ということで、早速ですけれども、次第に沿って進めさせていただきたいと思えます。

くにたちしやくしよしょう しえんか そうだんしえんがかりしゅさ いしかわ もう ねが  
国上市役所障がいしゃ支援課の相談支援係主査の石川と申します。よろしくお願ひいたします。

じむきょく みな おな しょう しえんか そうだんしえんがかり かかりちやう せきね  
【事務局】 皆さん、こんばんは。同じく障がいしゃ支援課相談支援係の係長をしております関根

もう ねが ほんじつ ほんらい かちやう おさだ どうせき よてい  
と申します。よろしくお願ひします。なお、本日、本来ですと課長の長田が同席する予定でしたが、

ほんじつ けっせき  
本日は欠席とさせていただきます。

じむきょく われわれ しやくしよがわ しょうかい さっそく しだい こうせいいん しょうかい  
【事務局】 我々、市役所側を紹介させていただいたので、早速、次第の構成員の紹介というところ

うつ おも  
ろに移らせていただきたいと思います。

じむきょく し こしょうかい おも きょう なら  
まずは、事務局から自己紹介させていただきたいと思えます。今日、ここに並んでいただいている

じむきょく じりつしえんきょうぎかい  
メンバー、事務局として、この自立支援協議会について、どういうふうにしたらよりよくなってくるの

かということ<sup>ひごろ</sup>を日頃から<sup>あつ</sup>集まって<sup>かつどう</sup>活動しているメンバーになるんですけども、<sup>しやくしょ</sup>まず市役所と、あと

<sup>しない</sup>市内の相談支援事業所<sup>そだんしえんじぎょうしょ</sup>の方々に<sup>かたがた</sup>なります。本来であれば<sup>ほんらい</sup>4事業所様に<sup>じぎょうしょさま</sup>事務局として<sup>じむきょく</sup>動いて<sup>うご</sup>いただいで

いるんですけども、<sup>きょう</sup>今日は<sup>たきのがわがくえん</sup>滝乃川学園様が<sup>しよじじょう</sup>諸事情により<sup>ごけっせき</sup>御欠席となっており<sup>たきのがわがくえん</sup>ますので、滝乃川学園

<sup>いがい</sup>以外の3事業所の<sup>じぎょうしょ</sup>自己紹介<sup>じこしょうかい</sup>を、<sup>みなさま</sup>まずは皆様に<sup>おも</sup>いただければと思ひます。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>みなさま</sup>皆様、<sup>つか</sup>お疲れ<sup>さんかしゃめいぼ</sup>さまです。参加者名簿<sup>じむきょく</sup>の事務局<sup>いちばんうえ</sup>の一番上<sup>たましゆるていきょうかい</sup>のところにあります多摩棕櫚亭協会

<sup>おくさこ</sup>なびいの奥<sup>もろ</sup>迫と申<sup>ねが</sup>します。よろしく<sup>ねが</sup>お願いいたします。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>おな</sup>同<sup>やまじ</sup>じく山地<sup>ねが</sup>です。よろしく<sup>ねが</sup>お願いいたします。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>した</sup>その下<sup>わく</sup>の<sup>しゃかいふくしほうじん</sup>枠の<sup>そだんしえん</sup>社会福祉<sup>しらかわ</sup>法人<sup>ねが</sup>かいゆう相談支援<sup>ねが</sup>エプシロン<sup>ねが</sup>の<sup>ねが</sup>白川<sup>ねが</sup>です。よろしく<sup>ねが</sup>お願い

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>おな</sup>同<sup>よしのあきこ</sup>じく吉笠<sup>ねが</sup>章子<sup>ねが</sup>です。よろしく<sup>ねが</sup>お願いいたします。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>ふくし</sup>福祉<sup>なかね</sup>サポート<sup>くにたち</sup>ライン<sup>なか</sup>・<sup>じぎょうしゃ</sup>くに<sup>しーあいえる</sup>たちの<sup>しーあいえる</sup>中<sup>しーあいえる</sup>根<sup>しーあいえる</sup>です。国立<sup>しーあいえる</sup>の中<sup>しーあいえる</sup>にある<sup>しーあいえる</sup>事業者<sup>しーあいえる</sup>ですけれども、C I L

<sup>い</sup>くに<sup>わ</sup>たち<sup>おも</sup>と言<sup>そだんしえん</sup>った<sup>ふくし</sup>ほう<sup>ふくし</sup>が<sup>ふくし</sup>分<sup>ふくし</sup>かり<sup>ふくし</sup>やす<sup>ふくし</sup>い<sup>ふくし</sup>の<sup>ふくし</sup>かな<sup>ふくし</sup>と思<sup>ふくし</sup>って<sup>ふくし</sup>いて、<sup>ふくし</sup>相<sup>ふくし</sup>談<sup>ふくし</sup>支<sup>ふくし</sup>援<sup>ふくし</sup>の<sup>ふくし</sup>ほう<sup>ふくし</sup>は<sup>ふくし</sup>福<sup>ふくし</sup>祉<sup>ふくし</sup>サ<sup>ふくし</sup>ポ<sup>ふくし</sup>ー<sup>ふくし</sup>ト<sup>ふくし</sup>ラ<sup>ふくし</sup>イ<sup>ふくし</sup>ン<sup>ふくし</sup>と

<sup>めいしやう</sup>いう<sup>ねが</sup>名<sup>ねが</sup>称<sup>ねが</sup>で<sup>ねが</sup>や<sup>ねが</sup>っ<sup>ねが</sup>て<sup>ねが</sup>い<sup>ねが</sup>ま<sup>ねが</sup>す。よろしく<sup>ねが</sup>お願いいたします。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>おな</sup>同<sup>しのはらゆみ</sup>じく篠<sup>ねが</sup>原<sup>ねが</sup>由<sup>ねが</sup>美<sup>ねが</sup>です。よろしく<sup>ねが</sup>お願いいたします。

<sup>じむきょく</sup>【事務局】<sup>いじょう</sup>ありがとうございます。以上<sup>じむきょく</sup>が事務局<sup>めんめん</sup>の面<sup>ねが</sup>々<sup>ねが</sup>になり<sup>ねが</sup>ますので、<sup>ねが</sup>お願い<sup>ねが</sup>いた<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>ます。

<sup>さっそく</sup>早速<sup>こうせいいん</sup>なん<sup>みなさま</sup>ですけれども、<sup>かお</sup>構<sup>あ</sup>成<sup>きょう</sup>員<sup>はじ</sup>の<sup>おも</sup>皆様<sup>みなさま</sup>は<sup>みなさま</sup>顔<sup>みなさま</sup>を<sup>みなさま</sup>合<sup>みなさま</sup>わ<sup>みなさま</sup>せ<sup>みなさま</sup>る<sup>みなさま</sup>の<sup>みなさま</sup>は<sup>みなさま</sup>今<sup>みなさま</sup>日<sup>みなさま</sup>が<sup>みなさま</sup>初<sup>みなさま</sup>め<sup>みなさま</sup>て<sup>みなさま</sup>だ<sup>みなさま</sup>と思<sup>みなさま</sup>ひ<sup>みなさま</sup>ます<sup>みなさま</sup>ので、<sup>みなさま</sup>皆<sup>みなさま</sup>様<sup>みなさま</sup>、

<sup>ひとこと</sup>一<sup>じこしょうかい</sup>言<sup>おも</sup>ずつ<sup>おも</sup>自<sup>おも</sup>己<sup>おも</sup>紹<sup>おも</sup>介<sup>おも</sup>を<sup>おも</sup>し<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>た<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>け<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>ば<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>ひ<sup>おも</sup>ます。

<sup>じゆんじゆん</sup>まずは、<sup>ねが</sup>順<sup>ねが</sup>々<sup>ねが</sup>によ<sup>ねが</sup>ろ<sup>ねが</sup>しく<sup>ねが</sup>お<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>ねが</sup>いた<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>ます。

【構成員】 今日この自立支援協議会に初めて参加させていただきます。もともと私は、最初は立川聾

学校というところが立川にあります、その教員をやった後、立川養護学校というところに、

今は武蔵学園になりましたけれども、その教員をやっていた後、親御さんたちと一緒に施設をつくる

ということで、多摩地域で運動していたのが昭和60年代。ところが、ちょうどバブルのところで、福祉

施設に2000坪、3000坪をあれすることはできないということで、やむなく長野のほうに学園をつ

くりまして、みどりのまきは学園、そういうところには国立市の方も、教え子というか、一緒に行っ

たということです。その後、八王子のほうで重身の方の通所施設、八王子市障害者療育センターを

立ち上げまして、重身の方を通所で何とか見ようという医ケアのある方も含めて、在宅のままでいた

方も多かったのですが、そういうことを始めました。

もう現場は退職しているんですけども、サポート協会という、例えば第三者に対して暴行した

とか、あるいはボランティアの方に対して何か被害を被るようなことがあった場合、その補償をし

ていくというようなことをやっている組織が全国にもあって、今16万人ぐらい会員の方がいて、東京

も今5500人ぐらいの方はいらっしゃいます。本来だともっといっぱいいるはずなんですけれども、

そういう方たちの補償制度を主として、サポート協会というところの理事をずっとやっております。

あと、八王子のみずき福祉会の評議員や、横浜にある同愛会という大きな社会福祉法人の評議員、

国立にもあるわかばの家の睦月会の監事をやっています。今日は滝乃川学園の方がいらっしゃってい

ないんですけども、現在は篠原さんと一緒に滝乃川学園で権利擁護委員と一緒に努めております。

私は最初に結婚したのが国立市のたまらん坂というところで新婚生活を送っていて、今は青梅に移

ったんですけれども、国立は大好きな町であります。そんな御縁がありました。

ただ、自立支援協議会というのは、私 もいろんな関係者に聞いて、市区町村によって随分その中身が違っていることが今までのリサーチでよく分かって、非常に課題解決のために力を注いでいる

自治体とそうでもない自治体とあるような気が、雑駁な言い方で大変申し訳ないんですけれども、こういう場に来たなら、何らかの形でお力になればいいなというふうに思っております。よろしく

お願いします。すみません、長くなりました。

【構成員】 構成員の上から3番目、S P Jの所属です。棕櫚亭協会の関係者ということになります。よろしくお願いします。ピアスというところでトレーニングをさせていただいて、現在は国立市内

の介護施設で勤務させていただいています。現在は、なびいと、オープナーを利用している状態です。初めてです。どうかよろしくお願いいたします。

【構成員】 皆さん、初めまして、よろしくお願いいたします。太陽と昴の会は、国立市の発達しょうがいの親の会でありまして、だんだん当事者の子どもたちが大きくなってきて、子どもも会員にな

っているケースがあるんですけれども、そういう集まりです。私自身も、今21歳になるんですけれども次男が発達障がい、小学校の頃からかいゆうさんですとか、滝乃川学園さんにいろいろお世話

になってまいりました。初めてこういう会の参加なので、今までのことを恩送りみたいな形で後の人につなげていければいいと思っております。よろしくお願いいたします。

【構成員】 皆さん、こんばんは。いわゆる社協と言われているんですけれども、もし御存じのない方がいたら、ちょっと簡単に30秒程度で。

まず、しょうがいのある方の生活介護を2つ事業所として運営したりしています。あとは、ヘルパーを派遣させていただいたり、いわゆるケアマネがいる部門がいたり、あとはボランティアセンターとか、CSWという地域のコミュニティソーシャルケアのことを、ソーシャルワークなどをやっております。

あと、人権擁護事業とって、いわゆる成年後見とか、もう30秒を過ぎちゃいましたか。成年後見のお手伝いをしたり、あと、一緒にお金とか書類の整理をしたり、そんなことをしている法人になります。どうぞよろしくお願ひします。

【構成員】 着席したままで失礼いたします。こんばんは。国立に越してきて2月で8年、今年目になるんですが、こういった場にお誘ひいただいたので、しっかり勉強させていただく機会にしたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【構成員】 真ん中の辺に書いてあります生活介護事業所（天成舎）というところで施設をやっております。国立でもう30年以上やっているんですけども、生活介護Aが20名で、B型のほうが40名定員でやっていて、矢川のほうにある施設です。府中のほうにも、法人の中ではグループホームと放課後等デイサービス、児童発達支援というのもやっているの、法人では5事業やらせていただひています。一応本部のほうになるので、子どもたちをグループホームのほうはサビ管もやっているので、全ての管理とかにも関わっているの、いろいろな悩みとか、それぞれの問題点とかも少しずつ持ち上がってきているの、いろいろ勉強もさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【構成員】 皆様、こんばんは。センターのほうでは、就学前のお子さんの療育を中心行ってお

ります。定員30名ですが、現在、契約者数としては60名近くのお子さんを預かっております。

私は施設長なのですが、相談支援専門員も兼務しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【構成員】 改めまして、こんばんは。私は、主に特別支援教育の担当をさせていただいております。

ですので、こういう機会に関係することができて本当にありがたく思っております。学校教育は様々な

課題がある中で、もちろん国立市がいろいろやっているフルインクルーシブ教育とか、いろんな取組

をさせていただいているところではあるんですけども、やっぱり誰も同じように、同じ機会学べ

ることを目指しているところがございますので、このような機会に私も勉強させていただきながら、

参加させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【構成員】 皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。ちょっと聞き慣れないセンターの名前な

ので、簡単に概要を、私も30秒でお伝えできればと思います。

簡単に言ってしまうと、雇用と福祉をつなぐセンターで、国から受託した事業です。都内に6セン

ターほどありまして、障がいのある方の就労支援をさせていただいているセンターです。やはりか

なりセンターの登録者数も増えていまして、今、530人ぐらいかな、登録自体はそれぐらいいらっし

やいます。とはいっても、実際に使っているのは、そのうちの300人ぐらいかなという感じです。

私自身は、このセンターに来て3年ぐらいになるんですが、オープナーはもうかなり年数はたっ

ていまして、都内6センターのうちの兼任としては11市を担当させていただいております。自立支援協

議会との関係で言えば、私自身、東京都の自立支援協議会と、小金井市の自立支援協議会に参画させ

ていただいて、やはりそれぞれ、先ほど藤田先生もおっしゃっていたように、やっぱりいろんなカラ

一がなとおちさんか ねが  
一がなと思ひながら参加させていただきます。よろしくお願ひいたします。

こうせいいん した ほんめ た またちかわほけんじょ しょぞく ねが  
【構成員】 下から3番目にあります多摩立川保健所に所属しています。よろしくお願ひします。

ほけんじょ こころ からだ けんこうそうだん せいしんほけん なんびょう かた いりょうてき じ さいしよ りょうよう  
保健所なので、心と体の健康相談ということで、精神保健、難病の方、医療的ケア児の最初の療養

りょうようかんきょう すうねんまえ たいへん せ わ かんせんしやう  
づくり、療養環境づくりなどをさせていただくの、数年前まで大変お世話になりました感染症

たいさく お しょう かた い じゆしん  
対策をさせていただきます。コロナのピークが終わりまして、障がいがある方のかかりつけ医の受診

すす おし  
がすすんで、そこだけはちょっとだけほっとしているところがございます。いろいろ教えていた

おち ねが  
だけたらと思ひます。よろしくお願ひします。

こうせいいん みな そうだんしえんじぎやうしよれんらくかい だいひやう き しょぞく  
【構成員】 皆さん、こんばんは。相談支援事業所連絡会から代表として来ました。所属は、ケアプ

らんセンターたまぶらねっとという事業者で、精神障がいの方をメインに担当しています。よろしく

ねが  
お願ひいたします。

こうせいいん みなさま わたし じりつしえんきやうぎかい ちいきかだいきやうぎふかい だいひやう さんか  
【構成員】 皆様、こんばんは。私は、自立支援協議会の地域課題協議部会を代表して参加させて

いただいています。

しょぞく そうだんしえんじぎやうしよ くになちえきまえ じぎやうしよ ぞく わたしじしん ねんまえ  
所属は、相談支援事業所ハッピーテラス国立駅前という事業所に属しております。私自身は、2年前

そうだんしえんじぎやうしよれんらくかい さんか こんかい ぜんたいかい ぶかい かつどうほうこく  
から相談支援事業所連絡会に参加するようになりまして、今回、全体会で部会の活動報告をさせてい

ねが  
ただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

じむきよく こうせいいん しょうかい お ぎちやう せんしゆつ  
【事務局】 ありがとうございました。構成員の紹介が終わったところで、②の議長の選出のほう

い  
に行かせていただきたいと思います。

じりつしえんきやうぎかいせつちやうこう だい じやう じりつしえんきやうぎかい ぜんたいかいおよ せんもんぶかい こうせい  
この自立支援協議会設置要綱の第3条に、自立支援協議会は、全体会及び専門部会により構成する

か  
と書いてあるんですね。ぜんたいかい  
ば  
そしてせんもんぶかい  
いま みうら  
と書いてあるんですね。全体会というのはまさにこの場、そして専門部会というのが、今、三浦さん

はな  
ちいきかだいきょうぎぶかい  
せんもんぶかい  
れいわ ねんど  
せんもんぶかい  
かたち いち  
がお話しされた地域課題協議部会が専門部会です。令和6年度から専門部会という形で位置づけられ

だいいし  
きょうぎかい  
かい とうかつ  
ぎちよう お  
ぎちよう こうせいいん  
ているところになります。第5条に、協議会に、会を統括する議長を置き、また、その議長は構成員

こせん  
さだ  
か  
きょうごさんか  
の互選によりこれを定めることとすると書かれてあるんです。なので、今日御参加いただいている

こうせいいん みなさま なか  
こせん かたち  
ぎちよう せんしゅつ  
かんが  
構成員の皆様の中から、互選という形で議長を選出させていただきたいと考えております。

い  
おも  
ぎちよう せんしゅつ  
いきなり言われてもとなってしまうかと思うんですけれども、議長の選出について、どなたかやり

かた  
き  
おも  
たいというような方がもしいらっしゃれば、お聞きしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

ぎちよう い  
ぎちよう なに  
そうなんです。やっぱりなかなか、もちろんいきなり議長と言われても、議長というものは何をす

めいかく  
み  
なか  
ぜんたい とうかつ  
さき わたし つた  
るんだと、なかなか明確なところが見えてこない中で、全体を統括するというふうに先ほど私はお伝

と  
こういけいせい はか  
やくわり  
えしましたけれども、取りまとめて、おおむねの合意形成を図っていくようなところがメインの役割に

おも  
かた しめい はつげん もと  
ぎちよう  
なってくるのかなと思います。いろいろな方を指名して発言を求めたりとか、まさにチェアマン、議長と

だ いち おも  
やくわり お  
かた えら  
いうのはそういう立ち位置かと思うんですけれども、そういった役割を負っていただきたい方を選ば

おも  
せていただきたいと思うんですけれども、どうですか。

かた  
ごすいせんとう  
ごいけん  
せっきよくてき  
どなたかもしこの方がいとかという御推薦等がもしあれば、そういった御意見もぜひ積極的にい

おも  
ただきたいなと思っているんですけれども、どなたかいらっしゃいますか。

こうせいいん わたし となり  
かさい すいせん  
おも  
そうだんしえん  
【構成員】私の隣にいらっしゃいます笠井さんを推薦させていただきたいと思います。相談支援

せんもんいん  
ほうふ  
ごけいけん  
も  
いぜん  
じりつしえんきょうぎかい  
専門員として豊富な御経験をお持ちでいらっしゃるということと、あと以前から自立支援協議会に

かん  
つよ  
きょうみ  
も  
さんか  
かさい  
関してとても強い興味をお持ちでいらっしゃって参加されてきているということなので、ぜひ笠井さ

ん<sup>ねが</sup>にお願いしたいと思<sup>おも</sup>っております。いかがでしょうか。

[ 拍手 ]

【事務局】 ありがとうございます。拍手<sup>はくしゅ</sup>が既<sup>すで</sup>に湧<sup>わ</sup>き起<sup>お</sup>こっていますが、どうですか、今<sup>いま</sup>、御推薦<sup>ごすいせん</sup>の

御意見<sup>ごいけん</sup>いただいた上<sup>うえ</sup>で、御指名<sup>ごしめい</sup>を受けた笠井<sup>かさい</sup>さんということですが、皆様、どうですか。よろしいでしょうか。

全会<sup>ぜんかい</sup>一致<sup>いっち</sup>ということで、笠井<sup>かさい</sup>さんに議長<sup>ぎちよう</sup>という形<sup>かたち</sup>でバトンタッチ<sup>おも</sup>させていただきたいと思<sup>おも</sup>います  
が、よろしいですか。

【議長】 御紹介<sup>ごしょうかい</sup>にあずかりましたたまぶらね<sup>かさい</sup>との笠井<sup>かさい</sup>とい<sup>はず</sup>います。ちょっとマスク<sup>はす</sup>を外<sup>はず</sup>していき  
ますね。

わたし <sup>いま</sup> <sup>くにたち</sup> <sup>しごと</sup> <sup>はじ</sup> <sup>まる</sup> <sup>ねん</sup> <sup>さいしょ</sup> <sup>ころ</sup> <sup>じりつしえんきょうぎかい</sup> <sup>さんか</sup>  
私は今、国立で仕事を始めて丸11年なんです、最初の頃から自立支援協議会には参加して、  
<sup>とうしょ</sup> <sup>ぶかい</sup> <sup>ご</sup> <sup>ぶかい</sup> <sup>しょぞく</sup> <sup>じりつしえんきょうぎかい</sup>  
当初のくらし部会というところでした。その後、部会には所属してなかったんですが、自立支援協議会  
<sup>ぼうちよう</sup> <sup>きよねん</sup> <sup>まえ</sup> <sup>とし</sup>  
はどうなっていくのかなということで、ちょこちょこ傍聴とかをしまして、去年、その前の年と  
<sup>み</sup> <sup>すいせん</sup> <sup>う</sup> <sup>おも</sup>  
見たりして、そういうところで推薦を受けたのかなと思<sup>おも</sup>っております。

<sup>いま</sup> <sup>きょうぎかい</sup> <sup>すべ</sup> <sup>ま</sup> <sup>はじ</sup> <sup>う</sup> <sup>くる</sup> <sup>あじ</sup>  
今、協議会のほうを全て真っさらなところから始めるということで、まさに生みの苦しみを味わっ  
<sup>なか</sup> <sup>ぎちよう</sup> <sup>やくわり</sup> <sup>じゅうせき</sup> <sup>わたし</sup> <sup>じむきょく</sup>  
ているところです。その中での議長という役割は重責ではあるんですけども、私は事務局ではあ  
<sup>きゃっかんてき</sup> <sup>たちば</sup> <sup>し</sup> <sup>き</sup> <sup>おも</sup>  
りませんので、客観的な立場で仕切っていければいいかなと思<sup>おも</sup>っています。

<sup>さき</sup> <sup>じ</sup> <sup>こしょうかい</sup> <sup>もう</sup> <sup>あ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>せいしんしょう</sup> <sup>かた</sup>  
先ほど自己紹介でも申し上げましたが、私は精神障がいのある方をメインにやっていますので、  
<sup>いがい</sup> <sup>ぶんや</sup> <sup>うと</sup> <sup>みな</sup> <sup>ごきょうりよく</sup>  
ちょっとそれ以外の分野に疎いところもありますので、ぜひ皆さん、御協力いただければます。よろ

ねが  
しくお願いいたします。

しだい  
では、次第にのっとりまして、まず、議題の①地域課題協議部会の活動報告を、三浦さんからお願い  
します。

こうせいん  
【構成員】 それでは、令和6年度地域課題協議部会の活動を報告させていただきます。先ほど説明が

れいわ ねんど  
ありましたとおり、令和5年度まで4つあった部会の再編成に向け、令和6年度は地域課題協議部会が

ほっそく  
発足されました。地域住民の皆様が抱えている課題に接する立場にある相談支援事業所が部会のメン

くにたちし  
バーとなりました。まずは、国立市における地域課題を抽出し、その後、それぞれの課題解決のた

ぶかい  
めの部会やワーキンググループを立ち上げるところまでを目指し、活動を開始いたしました。

だい  
第1回地域課題協議部会は6月26日に開催されました。それぞれの事業所が把握している地域

かだい  
課題を課題報告シートに記載し取りまとめましたところ、その量の多さから、部会内をA班、B班の

わ  
2つに分けて、それぞれの課題の分類、整理を行いました。第2回地域課題協議部会は9月6日に開催

だい  
し、第1回の活動内容を障がいしゃ支援課の方がまとめてくださったスクリーニング表を基に、そ

ないよう  
の内容の確認、再編成をA班、B班それぞれで行いました。お手元の資料のとおり、A班とB班の進捗

じょうきよう  
状況には若干違いがございます。今後は、2班それぞれで分類、整理したスクリーニング表を統合

よてい  
していく予定であります。第3回部会は2月21日に行い、これまでの振り返りと今後の進め方につ

きようぎ  
いて協議いたしました。

かつどうかいしどうしょ  
活動開始当初は、この全体会を12月にも開催し、地域課題協議部会の活動の中間報告を行い、皆様

ごいけんとう  
から御意見等をいただく予定でありましたが、準備等の再検討の必要性もあったため、12月の全体会

開催を見送り、本日を迎えております。

地域課題協議部会の活動報告といたしまして本日お伝えできる内容といたしましては、この課題の

分類、整理の途中であるというところにとどまっております。課題抽出、分類、整理に思いの外、

時間がかかってしまい、結果として、問題解決への道筋を見いだすところまでたどり着くことができ

ておりません。この点を深く反省し、令和7年度は、まず、年度の前半は毎月部会を開催し問題解決の

目的に合った部会やワーキンググループを構築して、地域の皆様とともに活動できるよう、スピード

感を持って取り組んでいく所存でございます。

以上、簡単ではございますが、令和6年度の地域課題協議部会活動報告とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

【議長】 三浦さん、ありがとうございました。

それでは、今の報告について御質問があればお願いいたします。

【構成員】 簡単なことでよろしいんですけども、グループを2つに分けられた何か区分というの

はありましたかということと、シートを見せていただいて、似ている課題も、似ていない課題、片方の

グループだけで取り上げていただいている課題もあったんですが、番号が順番に振ってあるんです

が、これは何か優先順位とか、これはぜひ何とかしたいなと皆さんが思った順番とか、何かございま

すでしょうかという点です。

【議長】 今、進め方についての御質問を受けているところですが、AとBに分けた分け方に何か基準

とかがあったのかという質問ですが、事務局のほうでよろしいですか。

【構成員】 私<sup>わたし</sup>の今<sup>いま</sup>、答えられる範囲<sup>こた はんい</sup>としては、事業所<sup>じぎょうしょ</sup>が全部<sup>ぜんぶ</sup>で11か所<sup>かしょ</sup>あって、それぞれさっきの  
たまぶらね<sup>かさい</sup>の笠井<sup>せいしんちゆうしん</sup>さんは精神<sup>せいしんしやう</sup>中心<sup>かた ちゆうしん</sup>ですか、うちも精神<sup>せいしんしやう</sup>障がい<sup>かた ちゆうしん</sup>の方<sup>かた ちゆうしん</sup>を中心<sup>せいしんしやう</sup>にやっているとこ  
で、それぞれ身体<sup>しんたい</sup>のところで、知的<sup>ちてき</sup>をやっていますとか、いろいろ得意<sup>とくいぶんや</sup>分野<sup>ぶんや</sup>があるので、それが混ざ  
るように、偏<sup>かたよ</sup>らない、いろいろな分野<sup>ぶんや</sup>の方<sup>かた</sup>とやり取り<sup>と</sup>できるよようにというところは、1つグループ<sup>わ</sup>分  
けをするときに配慮<sup>はいりよ</sup>したところかなと思います。あとは、事務局<sup>じむきょく</sup>の方<sup>かた</sup>、補足<sup>ほそく</sup>があればお願い<sup>ねが</sup>します。

【事務局】 ちょっとだけ補足<sup>ほそく</sup>させていただきたいんですけれども、今<sup>いま</sup>、奥迫<sup>おくさこ</sup>さんが言<sup>い</sup>っていた  
たとおりですが、あと1つ、強<sup>し</sup>いて言うのであれば、上<sup>あ</sup>がってきた困<sup>こま</sup>り事<sup>ごと</sup>というか、それぞれの事業所<sup>じぎょうしょ</sup>  
様<sup>さま</sup>から上<sup>あ</sup>がってきたものがあまりにも多<sup>おほ</sup>かった、非常<sup>ひじょう</sup>に多<sup>おほ</sup>い数<sup>かず</sup>だったので、これを1つのグループで  
まとめ<sup>ま</sup>てやるというのは、やっぱりなかなか現<sup>げん</sup>実<sup>じつ</sup>的<sup>てき</sup>じゃないだろうという話<sup>はなし</sup>にもなったので、2つの  
グループ<sup>わ</sup>に分<sup>わ</sup>ける1つきかけにもなったのかなと思います。

【事務局】 番号<sup>ばんごう</sup>を振<sup>ふ</sup>ってあるのが優先<sup>ゆうせん</sup>順位<sup>じゆんい</sup>とどうかというのですが、そうではないです。私<sup>わたし</sup>はBグ  
ループ<sup>びー</sup>だったんですが、まず、1回目<sup>かいめ</sup>の協<sup>きやう</sup>議<sup>ぎ</sup>部<sup>ぶ</sup>会<sup>かい</sup>をやる前<sup>まえ</sup>に、各事業所<sup>かくじぎょうしょ</sup>が利用<sup>りよう</sup>者<sup>しゃ</sup>の方<sup>かた</sup>から聞<sup>き</sup>いている  
困<sup>こま</sup>り事<sup>ごと</sup>とかを一<sup>ひと</sup>通<sup>とお</sup>り書<sup>か</sup>き出<sup>だ</sup>していったんですけれども、実<sup>じっ</sup>際<sup>さい</sup>には1回目<sup>かいめ</sup>のとき、グループワ<sup>わ</sup>ークと  
か<sup>か</sup>でやる付<sup>ふ</sup>箋<sup>せん</sup>に<sup>は</sup>ぺた<sup>かみ</sup>ぺた<sup>は</sup>貼<sup>に</sup>って、紙<sup>かみ</sup>に貼<sup>は</sup>って似<sup>に</sup>ているようなものをグルーピング<sup>さぎやう</sup>してとかという作業<sup>さぎやう</sup>  
をしたんです。この表<sup>ひょう</sup>にある分類<sup>ぶんるい</sup>というのが、例<sup>たと</sup>えば、ヘルパー<sup>へるぱー</sup>不足<sup>ふそく</sup>とかというのは分類<sup>ぶんるい</sup>で、そうい  
うふうにつくっていったんですけれども、それをこの表<sup>ひょう</sup>に入<sup>い</sup>れ込<sup>こ</sup>むときに、全部<sup>ぜんぶ</sup>で幾<sup>いく</sup>つあるかなとい  
う幾<sup>いく</sup>つあるからの数字<sup>すうじ</sup>なんです、ただ、Bグループ<sup>びー</sup>は、1回目<sup>かいめ</sup>のときどれが優先<sup>ゆうせん</sup>だろうかとい  
話<sup>はなし</sup>合<sup>あ</sup>いをして、そのときヘルパー<sup>へるぱー</sup>不足<sup>ふそく</sup>というのが出<sup>で</sup>ました。

【事務局】 グループ分けのほうですけれども、こうやって集まった事業所が必ずしもしょっちゅう

会って、何でも共有しているという事業所になってはいないんですね。これから、自立支援協議会は

やっぱりネットワークという言葉が大事になっていく、そういうものであるためには、やはりざっく

ばらんに話せるとか、距離をもう少し近づけていかないと、なかなかこういう課題について話をして

いくという、地道に長くやっていかなければいけない問題に対して、大分そこに時間がかかったとい

うのはあります。

問題意識はそれぞれ違いますし、やっぱり声の大きい人のほうが発言も、均等にはやっぱりかな

かかないんですね。それぞれの人の価値観は会っていればだんだん分かってきますが、その方たち

が大事にしている事業所の価値などについてはまだまだ十分に浸透、それぞれに浸透していない

状態でもあったので、なので、三浦さんの報告にもあったように、時間がかかっているというのはそ

こもありました。でも、ここは大事なところだと考えていましたので、丁寧に進めていくということ

と、橋本さんからあったように、これから優先順位をつけていくという、そういう分類とか分析がこ

れから始まるところです。

【構成員】 今のところでちょっと追加で質問があって、やはり難しいとかいう、距離とかそういう

面では確かにそうだと思うんですけども、頻度的にはどれぐらいの頻度で集まられているのかとい

う、単純な質問です。

【議長】 部会が3回ありまして、その間に事務局会議とか、そういうのを含めてですよ。

【構成員】 そうですね。ちょっと全体像が今、私もあまり承知していないので。大体で結構です。

【事務局】 全体のイメージなんですけれども、まず、この部会をやる前に、事務局で1度集まって、  
どういう内容で進めていったらいいのかという、一番効果的な場になるだろうかというところを、ま  
ず集まって話をし、次に部会をやって、その部会の後に振り返りをやるということが1セットと  
いうイメージです。令和6年度については、6月、9月、2月の3回実施したという形になります。

【構成員】 そうすると、3掛ける3で9回という感じですね。分かりました。ありがとうございます。  
す。

【構成員】 ちょっと教えていただきたいんですけども、困り事というのは、どなたかの視点の困り  
感なのかというのがちょっと分からなかったので、1つ教えていただきたいと思います。

【構成員】 困り事は、この部会のメンバーというのがみんな相談支援事業所で、相談支援専門員な  
ので、ふだん相談を受けている現場で、利用者の方から聞いた、その利用者の方というのは、障がい  
のある御本人のこともあれば、その家族のこともあります。あと、それ以外に、事業所として困って  
いるということも、ちょっと全部ごっちゃになっていて、とにかく困っていること、ふだん困ってい  
ることということで挙げました。あまりごっちゃになっていたので、それを少し誰の視点からとか  
分類、整理するということをしました。

【構成員】 ありがとうございます。幾つか混ざっているところもあるという理解ですかね。分か  
りました。

私の場合は教育委員会なので、義務教育でいうと6歳から15歳というところ、ただ、18歳まで  
見るのかということもあるんですけども、私の立場からすると、子どもの困り感はどこにあるの

かというのが正しょうじき直分わからなくて、あくまでこれは成人せいじんされている方かたとか、それに近いちか年齢ねんれいの方かたの困こま

り感かんと見るみことができるかなというふうおもに思ったおもんですけれども、実際じっさい学校がっこうとかを見てみいても、子こど

もこえの声こえが、こども基本条きほんじょうれい例れいががこの4月にち1日しこうから施行こされますけれども、子こどもがどこで、要ようは学校現場がっこうげんば

以外いがいで、生活せいかつの中なかでこまどういかんう困もり感もを持っているのかというところ。ただ、それが教きょう育いく委員いん会かいで何なにか

できるというわけではないんですけれども、こんなところこまで困こまっているのかというのが、もしかした

ら学校教がっこうきょういく育かかと関すこわるところがてあれば、少うしでも手しえんだてを打うっているところが、支しえん援えんができるのかとい

うところもあるのかなおもと思おもって。

ちよみっと見みさせていなかただく中こでは、子こまどもの困かんり感ででなかなここには出こてここないのかなというの

がかんがあって、たこだ、やひとりひとりっぱり子けんりども一も人も一人も一人もが権かんが利がを持こっているというふうこえに考こえらこると、子こどもの声こえは

どこにあるかなというのこが。そうすると、成人せいじんした方かたとこただけではなくて、子こどもおもなりの思おもっている

困こまり感かんというところすこがもう少しし知わたしれたら、私わたしなんかはおもすぐおもくありがおもたいなおもと思おもうところおもがあったの

で、ちよかんそうっと感かん想そうになっかんてしまかんいますかんけれども、そういしてんう視わたし点みで私わたしは見みましたといつたうことつたをお伝つたえさ

せていつたたきました。

【議長】 今いまの御意ごい見けんにたい対たいして。

【構成員】 子こどもの困こまり感かんというこか、子こどもも親おやもおもそうおもだと思おもうんおもですけれども、Bびーグびールびーープでい

いますと、1番ばんの1番下いちばんしたの◎特とく別べつ支し援えん学が校こうで、高こう等とう部ぶになじょうしやるとスじょうしやクじょうしやールバじょうしやスじょうしやに乗じょうしや車じょうしやできじょうしやなくなりとい

うところほんにんがありますし、本ほん人にんも移い動どうで困こまっているといおやごうことおやごもありますし、親おやご御ごさんおやごも、どうやおやごって

このことかいけつを解かい決けつしていこうかなこまと、子こどもの困こまりはいごとはいも入はいっているといはいうのはいもあはいります。

あと、3番の家庭単位の支援のまとめ役がないというところもあったり、あと、プールの問題も  
あります。プールに入りたいんだけどヘルパーが見つからないとか、あと、7番のその他で、立川  
学園の敷地の問題から放課後等デイサービスで送迎の問題です。それと、どこかにあったと思うんで  
すけれども、通学のときに同行をする、親御さんでできればいいですが、そうでないところで、ヘル  
パーを探しているんだけどなかなか見つからないといった問題が多くあります。

【事務局】 課題協議部会の課題なんですけれども、今の御質問は、自分たちの目の前の困り感にど  
うしても行ってしまって、満遍なく地域にある困っているということを吸い上げるためにどうしたら  
いいかという本当に出発点なんですね。だから、今、どういう人たちに聞けばいいのかとか、来年度  
からそこが始まって、今は計画相談とか相談支援事業所に来られる私たちの経験から出していますが、  
本当にその対象じゃない方たち、それこそ制度と制度の間隙にいる方とか、もちろん難病の方と  
か、困窮の方とか、障がいという名前のついていない方たちの課題に感じているようなこと、困っ  
ているようなことをどう吸い上げるかというのは、これからです。正直言うとそこです。

【議長】 児童に関わる事業所は幾つかありますので、困り事としての挙げ方が、子ども視点から挙が  
っているとちょっと分かりやすいのかなということは、ちょっと私も感じましたので、今後の検討にし  
ていければいいかなと思いました。

【構成員】 子どもの困り事ということについてなんですけれども、私の経験からすると、実際、う  
ちの子が小学生、中学生ぐらいの頃は、子ども自身は困っていないくて、やっぱり親がすごく困って  
いるとか、周りが困っているという状況が、うちは特に発達障がいだったので、子どもは自覚して

いないケースが結構あるんじゃないかなと思っています。

【事務局】 すみません。今のお子さんの御意見、フォローという形になりますけれども、ちょっとすごく全部まとめちゃっている感があるじゃないですか。例えば家族支援ということで、本人というよりは、むしろその御家族をどう支援するか。私たち、とかく当事者とか、障がいを持っている御本人のことに目が行きがちなんですけれども、その御家族だとか、御兄弟だったりだとか、そういったところの視点というのはどうしても後に回されやすい部分があるので、そういった視点というのは必要なのかなというふうには思っております。

【議長】 ほかにいかがでしょうか。

そうしたら、このスクリーニング表の中身に入ってきていますので、この表を皆さん御覧になってきていただいていると思いますので、御感想とか御質問、自分もこんな困り事にすごく共感するという御意見でもいいですし、ここに載っていないようなことがもしあれば、載せてあげたらいいなと思われることとか、何でも結構ですので、御意見をいただければと思います。

【事務局】 典型的なところばかり聞いて申し訳ないですけども、このスクリーニング表というのは、部会のほうで作業するためということではよろしいですか。全体会でやるということではないですね。

空いているのをこれからやっていきますということの理解でよろしかったですか。

【議長】 例えば左から埋めていくんですが、大体、一通り埋まるとこんな感じになるよというのが、Bグループのほうで1つ埋まっているのがありますので、白川さんから紹介してもらっていいですか。

【事務局】 Bグループ、資料④の5番目、分類が資源の不足の①です。そもそもこの表を埋めていくのが難しかったですけれども、何のためにこの表を埋めようとしているかということ、実際に地域に困っている課題がある、それは個々にいろいろあるんだけど、その中にみんなで話していけば、これは国立の地域の課題だというのが浮かび上がってきて、その中にいろんな解決方法があったり、今困っている課題だと思っても違う方法で解決できたりすることがあるんじゃないか。そんなことを見ていながら、最終的にこの地域の課題に関して、こういう解決方法を探れば何か困っていることが解消していくんじゃないかと。そのために、実際にワーキンググループなり何かを立ち上げて、それを自立支援協議会としてやっていこうと。目標はそこで、この表を埋めることじゃないんですが、でも、とにかく時間がかかってしまったので、Bグループとしては、とにかく今、笠井さんが言ってくれたみたいに、一番右まで1つはやろうと思ったんです。

それが、この資源不足、5の①です。困り事ごととしては、一人暮らしの知的障がいしゃ、あるいは身寄りがない、同居の家族とか、親族とか、パートナーとか、特に関わる方がいない障がいのある方、障がいしゃへの支援が整っていない、そういうことが困っている。

問題が生じている背景というところはちょっと埋めていないんですが、私たちが考えたのは、どういう状態になればいいか、目指すべき状態です。今こういう困っていることがあるけれども、どういう状態になればいいんだろうか。それが、①の場合、身寄りがなくとも、誰でもどんな人でも希望すれば一人暮らしができる国立であること、それが目指すべき状態だと。では、今現在とのギャップ、あるいはどういうことが埋まれば、あるいは社会資源とか、何があれば少しでもその目指すべき状態

ちか なか くたいてき あ どにちしゅくじつ  
に近づけるかという中で、ちょっとここで具体的に上がってきたのが2つ、そこにある土日祝日の

れんらくさき たいおうさき ひとりく かた す たいちよう  
連絡先とか対応先というのがあれば、一人暮らしの方が過ごしやすいんじゃないか。あるいは、体調

わる きんぎゆうはんそう ひとり たんどう つ そ びょういん  
が悪くなったとき、緊急搬送されるときに、お一人だと、単独だと、なかなか付き添うとか、病院が

う い むすか びょういんがわ ひとりく しょう  
受け入れるとか、そういうところで難しくなってしまう。そこで、病院側も一人暮らしの障がいの

かた みよ しょう かた う い  
方、身寄りのない障がいしゃの方も受け入れるようになったらいいんじゃないか。

ほんとう いちばんはし かんが あ  
本当はもっともっとあるんですよ。でも、とにかく一番端まで考えてみたらどうということが上がる

なか あ ぜんぶ たと たいおう  
んだろうか。この中に挙がってきたことが全部、例えばワーキンググループとかで対応できることで

ないよう いちばんはし い  
もないですよ。内容によっては、とてもそういうことではないけれども、とにかく一番端まで入れ

てみようとしてやってみました。

ぎちよう  
【議長】 ありがとうございます。

かんそう しつもん だいじょうぶ かさま  
感想でも質問でも大丈夫です。風間さん、いかがですか。

こうせいいん の うんでんしゅ しだう  
【構成員】 バスに乗ったときに運転手に舌打ちされたというのはショックでしたね。こういうこと

うすうす かん ろこつ たいど ひじょう  
があるんだと、薄々は感じてはいますけれども、露骨にこういう態度があるんだということに、非常に

おどろ  
驚きました。

ぎちよう かん ちゃくもく てん なん けっこう おいかわ  
【議長】 そんな感じで、ちょっと着目した点でも何でも結構ですので、及川さんいかがでしょう。

こうせいいん かんたん もんだい みちすじ た むすか  
【構成員】 そんなに簡単に問題が、こうしていくべきみたいな道筋を立てることはなかなか難しい

おお おも て かん  
ことが多いかと思うんですけれども、どこから手をつけていいかという感じになってしまうんですけ

ゆうせんじゆんい き みぎ さんか おも  
れども、やはり優先順位を決めながら、1つでも右へずらしていけるように参加していきたいと思

ます。

【議長】 まだ御発言のない方はぜひお願いします。荒木さん、お願いします。

【構成員】 先ほど事務局の山地さんのほうから説明があったので、ちょっと言うのを控えていたん

ですけれども、進め方になってしまうのかもしれないんですけれども、相談支援事業所が集まっての

地域課題の抽出というのは、国立市において、多分、障がい福祉サービスを使っている人が中心に

見えてくるのかなというふうに思えてきていて、実際そういう中で、どれぐらいこの課題が抽出で

きるんだろうかなというのはちょっと分からない。特に私は障がい福祉というよりも雇用の分野に

いるので、意外とやっぱり福祉サービスを使っていない人が多い。言ったら障がいであるという方は

結構いるんじゃないか。しかも、セルフプランでやっぱりサービスを使っている人も結構いるという

ふうに聞いているもので、そういった方も含めて、どれぐらいこの地域課題、別に批判しているわけ

ではなくて、どれぐらい把握できるんだろうかというところは気になるところではあります。

就労分野でいうと、資料3の4番できちんと出しているのありがたいとは思っている

んですが、率直に言うとこれだけでも少ないなとは思っていますけれども、そうはいつでも、出して

いただいているのはありがたいなと。

もう一つ、先ほど教育のほうの話も出たんですが、やっぱり今、国立だけじゃなくて、はざまと

いうところ、これは教育と福祉でもいいですし、雇用と福祉でもいいですし、あと、ひきこもりとか

貧困の方もそうですけれども、そういったところのはざまの問題というのがやっぱり僕は一番課題と

して大きいのかなと。そのベースとなる部分を先にやりましょうということならそれでもいいと思う

んですけれども、やはりそこら<sup>へん</sup>辺が、今一番<sup>いまいちばん</sup>の課題<sup>かだい</sup>として、特に<sup>とく</sup>教育機関<sup>きょういくきかん</sup>から、例えば<sup>たと</sup>特別支援校<sup>とくべつしえんこう</sup>からうち<sup>しゅうろう</sup>に就労<sup>しゅうろう</sup>するので相談<sup>そうだん</sup>に来<sup>き</sup>ましたみたいなこと<sup>けっこう</sup>でいっても、なかなか<sup>かだい</sup>結構<sup>かか</sup>いろんな課題<sup>かだい</sup>を抱えている方も多<sup>かた</sup>かったり、具体的<sup>おお</sup>に言<sup>くたいてき</sup>ってしまうと、そう<sup>い</sup>いったところ<sup>い</sup>はどうなっていくんだろう<sup>い</sup>なとか、いろいろ<sup>へん</sup>ちょっとその辺<sup>き</sup>は気<sup>き</sup>になるところ<sup>き</sup>ではあるので、進め方<sup>すす</sup>と言<sup>かた</sup>ったのは何<sup>い</sup>かという<sup>なに</sup>と、このま<sup>すす</sup>ま進<sup>すす</sup>んでいいの<sup>き</sup>かどうか<sup>き</sup>という<sup>き</sup>のが<sup>き</sup>ちょっと気<sup>き</sup>にな<sup>き</sup>って、これを<sup>くうはく</sup>空白<sup>う</sup>を埋<sup>う</sup>めていく<sup>う</sup>ことが<sup>う</sup>いいの<sup>う</sup>かという<sup>う</sup>ところは<sup>う</sup>気<sup>う</sup>にな<sup>う</sup>っているところ<sup>う</sup>であります。

すみません。長<sup>なが</sup>くなりました。

【議長】<sup>ぎちよう</sup> 今<sup>いま</sup>かなり<sup>おお</sup>大きな<sup>こいけん</sup>御意見<sup>ごいけん</sup>がありました<sup>い</sup>けれども、今<sup>いま</sup>進<sup>すす</sup>めている<sup>すす</sup>中で、福祉<sup>ふくし</sup>サービス<sup>りよう</sup>を利用<sup>りよう</sup>して<sup>りよう</sup>いない<sup>りよう</sup>人<sup>ひと</sup>とか、セルフ<sup>かた</sup>プラン<sup>かた</sup>の方<sup>かた</sup>とか、は<sup>い</sup>ざまにある<sup>い</sup>方<sup>い</sup>たち、今<sup>いま</sup>進<sup>すす</sup>め<sup>すす</sup>ていると<sup>と</sup>取りこぼ<sup>と</sup>してしまう<sup>と</sup>ような<sup>と</sup>方<sup>と</sup>々<sup>と</sup>を<sup>と</sup>どう<sup>と</sup>考<sup>と</sup>える<sup>と</sup>のか<sup>と</sup>という<sup>と</sup>ところ<sup>と</sup>で<sup>と</sup>よろしい<sup>と</sup>ですか。事務<sup>じむきょく</sup>局<sup>ごいけん</sup>の<sup>ごいけん</sup>ほう<sup>ごいけん</sup>で御<sup>ご</sup>意見<sup>いけん</sup>いた<sup>いけん</sup>だ<sup>いけん</sup>いて<sup>いけん</sup>いい<sup>いけん</sup>で<sup>いけん</sup>しょうか。

【事務局】<sup>じむきょく</sup> 正<sup>しょうじき</sup>直<sup>もう</sup>に申<sup>じつ</sup>し<sup>はなし</sup>上<sup>い</sup>げ<sup>い</sup>ます<sup>い</sup>け<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>も、実<sup>じつ</sup>は<sup>はなし</sup>あ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>り<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>話<sup>い</sup>に<sup>い</sup>は<sup>い</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>ん。な<sup>い</sup>の<sup>い</sup>で、こ<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>に<sup>い</sup>は<sup>い</sup>上<sup>い</sup>が<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>き<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>と<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>事<sup>い</sup>実<sup>い</sup>です。た<sup>い</sup>だ、一<sup>い</sup>番<sup>い</sup>課<sup>い</sup>題<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>お<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>た<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>け<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>も、それ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>一<sup>い</sup>番<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>う<sup>い</sup>か<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>と、ご<sup>い</sup>め<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>な<sup>い</sup>さい、それ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>一<sup>い</sup>番<sup>い</sup>で<sup>い</sup>は<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>う<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>分<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>な<sup>い</sup>い<sup>い</sup>です。とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>のは、私<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>が<sup>し</sup>や<sup>し</sup>れ<sup>し</sup>る<sup>し</sup>範<sup>は</sup>ん<sup>ん</sup>圍<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>の<sup>い</sup>も<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>け<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>も、一<sup>い</sup>方<sup>い</sup>で、例<sup>た</sup>え<sup>た</sup>ば<sup>た</sup>ひ<sup>た</sup>き<sup>た</sup>こ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>り<sup>た</sup>の<sup>た</sup>問<sup>た</sup>題<sup>た</sup>で<sup>た</sup>す<sup>た</sup>と、自<sup>じ</sup>立<sup>り</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>協<sup>きょうぎ</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>で<sup>かい</sup>な<sup>かい</sup>く<sup>かい</sup>て<sup>かい</sup>も、少<sup>く</sup>な<sup>く</sup>く<sup>く</sup>とも<sup>く</sup>国<sup>くに</sup>立<sup>たち</sup>市<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>所<sup>しょ</sup>で<sup>しょ</sup>す<sup>しょ</sup>と<sup>しょ</sup>か、社<sup>しゃ</sup>協<sup>きょうぎ</sup>さん<sup>ぎょう</sup>で<sup>ぎょう</sup>す<sup>ぎょう</sup>と<sup>ぎょう</sup>か、N<sup>だん</sup>P<sup>だん</sup>O<sup>だん</sup>の<sup>だん</sup>い<sup>だん</sup>ろ<sup>だん</sup>ん<sup>だん</sup>な<sup>だん</sup>団<sup>だん</sup>体<sup>たい</sup>さん<sup>たい</sup>と、ひ<sup>か</sup>き<sup>か</sup>こ<sup>か</sup>も<sup>か</sup>り<sup>か</sup>関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>の<sup>けい</sup>と<sup>けい</sup>こ<sup>けい</sup>ろ<sup>けい</sup>と<sup>けい</sup>福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>の<sup>し</sup>連<sup>れん</sup>携<sup>けい</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>の<sup>い</sup>も<sup>い</sup>の<sup>い</sup>は<sup>い</sup>別<sup>べつ</sup>な<sup>べつ</sup>動<sup>うご</sup>き<sup>ご</sup>で<sup>ご</sup>や<sup>ご</sup>っ<sup>ご</sup>て<sup>ご</sup>は<sup>ご</sup>い<sup>ご</sup>る<sup>ご</sup>の<sup>ご</sup>で、それ<sup>ご</sup>を<sup>ご</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>こ<sup>ぶ</sup>の<sup>ぶ</sup>自<sup>じ</sup>立<sup>り</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>協<sup>きょうぎ</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>ちゆう</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>な<sup>い</sup>け<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ば<sup>い</sup>い<sup>い</sup>け<sup>い</sup>な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>と、

ちょっとそこはまた。いずれ一緒にやっていくかもしれませんが、

なので、リスタートを切って、取りあえず現状はこういう形で進めさせていただくということ、

前回の全体会の中で令和6年度はこういう形でやっていきたいと思いますということを皆さんに承認して

いただいたというところでやっているの、確かに守備範囲としては全然まだ至っていない部分はあ

って、それも認めます。加えて、相談支援事業所だけを、取りあえずリスタートを切るに当たってま

ずは相談支援事業所だけで始めましょう。いずれ違う人たちも混ぜてやっていきたいと思いますという思い

では始めているので、そうなってくれば、より範囲も広げていくことができるのかなと思うんですけ

れども、現状では、本当に申し訳ないですけども、そのまだ至っていない部分は認めざるを得な

いかなというふうに思っています。ちょっとそのあたりも御了承いただければというふうに思ってお

ります。

【事務局】荒木さんに聞きたいんですけども、例えば小金井とかは、こういう抽出とかで何か工夫

されたりとか参考になるものがあったら何か教えてほしいんですけども。

【構成員】本当に僕が参画したのは今年からで、前年度からの引き継ぎで、社会参加、全体会と、就労

部会と、そのほかいろいろ3部会ほどあるんですけども、そういったところでやっているの、僕は

今年から入ったばかりなので、どういう流れでつくられたのかというのはちょっと答えかねるんです

けれども。申し訳ない。

【事務局】はざまの問題を抽出するということまではちょっと行けていないのかなと思っています

す。ただ、課題としては、結構、これをどうしましょう、あれをどうしましょうというふうな設定で

かくぶかい ちいきかだい ひろ すす いんしょう  
各部署がなっているので、どちらかという地域課題を広げて進めているというのがこちらの印象な  
ので、これの中なかでどういう優先順位ゆうせんじゆんいをつけていくかというところは、また別途べつとかんが考えなきゃいけないん  
だろうなと、先ほどおっしゃったように、思ったところではあります。すみません、ちょっと答えに  
なっていないかもしれないです。

じむきょく かだい あつ かた じむきょく あつ  
【事務局】 課題の集め方については、ちょっと事務局のほうでもどうやって集めるかということが  
出ていたんですよ。本当に今後、一人一人の声が拾えるような仕組みはしていきたいんですけど  
も、事務局のほうじむきょくがちょっとまだ進めていないというところは申し訳ないんですけども、なので地域  
課題抽出部会かだいちゆうしゅつぶかいも、結局、今の相談支援のところけつごうがメインでやっているけれども、本当はもっと当事者  
とかいろいろ含めてやっていけたら、いろんなメンバーでやっていけたらなというのは考えて進めて  
いるところなんです。

ぎちよう けん かん なに みな  
【議長】 この件に関して何か皆さんのほうからいかがでしょう。

こうせいいん かだい もんだい かだいかいけつ むす  
【構成員】 この課題をどういうふうにまとめていくのか、あるいは問題、課題解決に結びついてい  
くのかという方法論ほうほうろんの中で、こういうケースをいっぱい集めて、そして抽出ちゆうしゅつしていく、それでカテ  
ゴライズしていくというのは1つの方法だと思っおもんですが、もう1つは、1つのケースあるいは会議の  
中なかで3つぐらいのケースをそれぞれがどのようにすれば一番いいんじゃないかというケーススタディ  
一的なアプローチてきの仕方もきつとあると思うんですね。ただ、ここは国立であるので、地域としての  
課題を最終的にはやっぱり結びつけていかなざるを得ないだろうということはある、そこにはやはり  
さまざまさまざまこうしたいろんな立場たちばの人が集まっているのは、そういう意味だと思っおもんですが、私わたしが知っし

いるこうした勉強会は、23区でやっている勉強の1つは、課題ではなくてケースを中心にして  
ことをやっていて、そして、このようなケースはどのようなサービス、あるいは事業所の中で、あの  
人ならこれを知っているよとかそういう情報交換、そういうものが広がっていくことが、結果的には  
それぞれの相談支援専門員の、言ってみれば引き出しを多くしていくという方法にもなるのかなとか、  
いろいろ今伺っていて考えていたところなんです、私は取りあえずここまでこういうふうに来て  
いるので、それぞれこれをもうちょっと突き詰めて考えていくということをやりながら、最初おっし  
やっていたネットワーク、情報のネットワークというか、問題を解決するための情報を、ネットワ  
ークをつくることによって何らかの解決の道を編み出すということも、とても大切なのかななんてい  
うふうに思いました。

【議長】 ありがとうございます。この先どう進めるかは、引き続きやっていきますが、まだこの  
表のところで、御質問、御意見のある方はお願いします。先ほど風間さんが手を挙げられていたので  
お願いします。

【構成員】 ピアスというところでトレーニングを受けていて、トレーニングを受けられる期間とい  
うのは決まっているんですね。トレーニングを施すほうも、受けるほうも、就職できていかなきゃ  
いけない時期になっても、例えば僕の場合リーマン・ショックで挫折してしまったんですけども、  
そういうことで職員も悩み、本人当事者も悩み、現場が疲弊していくのを見ていました。そういうは  
ざま、制度と制度とはざまで聞いても、政府が決めたことだから仕方がないと、期限が過ぎればB型の  
ほうに行かなければならない。ほかにも、私は小さい10代の頃に精神障がいを抱えても、今のよう

なサービスを受けられることを知りませんでした。だから、まずそういうことを知らない。

さっき山地さんがおっしゃっていたように、多くの専門性の違う事業所が集まっている中で、私は経験のない中で本当申し訳ないんですけども、こういうたくさんの方々の網羅的な角度から、多くの利用者が情報共有して、そうすると、こういう困っている分野があるなということを、各事業者が共有できるとするのはとてもいいことだと思います。こうやって、まず起こっている問題を書き出していくと、いろいろそこから派生的に相互で気づいていくことがあって、思いもよらない、いろいろな知恵を出し合えるのかなと思って、この課題を整理してくださった方々には感謝いたします。

【議長】 ありがとうございます。

ちょっと長くなってしまったので、ここで10分間の休憩に入りたいと思います。あの時計で23分まで休憩いたします。

〔休憩〕

【議長】 あと1分ぐらいありそうですが、皆さんおそろいなので、始めたいと思います。

ちょっと申し遅れましたが、この会は委員会ではないということで、皆さんのことはさんづけで呼ばせていただくということで事前に聞いています。よろしく願います。

では、ちょっと今後の方向性について事務局から、もう1回説明してもらってよろしいでしょうか。

【事務局】 今後の方向性なんですけれども、先ほど地域課題協議部会の報告で三浦さんからお話をいただいた中でもちょっと出てきたんですけども、まずはAグループとBグループにそれぞれ分かれていて、このスクリーニング表をまずは埋めていくために、部会の開催頻度をちょっと増やしてい

かなければいけないという話が出ています。令和6年度に関しては、6月と9月にやって、9月からちょっと間が空いてしまって2月ということで、3か月から4か月に1回というペースで令和6年度はやったんですけども、それだけ空いてしまうと、前回やった議論の続きがどこなのかというのがちょっと分からないので、どこから始めたらいいんだろうみたいな感じになってしまうんですね。なので、やっぱり頻度を上げてやっていくことには意味があるかなと思っています。令和7年度については、まずは年度の半分、上半期は毎月部会を開催して、このスクリーニング表を埋めていくというのをやっていけたらなということです。

これまで事務局会議をやって、事務局会議の後にこの地域課題協議部会をやって、最初に松田さんから御質問をいただいたときに私が話しましたが、3回で1セットみたいなところがあったと思うのですが、そこはもう協議部会として走り出しているんで、令和7年度に関しては月1回、まず課題協議部会をやった上で、その都度、事務局会議を開く必要ないかなと。2か月から3か月に1回開いたりとか、そこは柔軟に対応してやっていけたらなと思っています。

あと、AとBのスクリーニング表が埋まった後に、まずそれぞれのグループで課題が出切った、それで解決案まで出たという段階で、AとBを1つにまとめて、Aではこういうふうになりました、Bではこういうふうになりましたではなく、1つにまとめ、整理をしていくというようなフェーズに移っていったらと思っています。

その先に、やっぱりどれから取りかかっていくのかなという話は、やっぱり絶対しなきゃいけないかなと思っているんです。カテゴリ化した上で、マンパワー的にもですけども、全部を全部並行し

と  
て取りかかるというのは現実的ではないので、まずはどれからやっていこうというところでの整理を  
げんじつぎ  
せいら  
する場面は出てくるかなとは思いますが。整理をした上で、優先順位をつけたものから実際にワーキン  
ばめん で おも せいら うえ ゆうせんじゆんい じっさい  
ググループを立ち上げて、そこで実際に作業をしていくというようなイメージを考えているところで  
た あ じっさい さぎょう かんが  
す。補足はありますか。  
ほそく

【事務局】 今、石川さんが説明してくださったのも1つの流れの1つのイメージなんですけれども、  
じむきょく いま いしかわ せつめい なが  
今回今日こうやって全体会がある今までの経験や反省から、あの協議部会だけでただ進んでいくんじ  
こんかいきょう ぜんたいかい いま けいけん はんせい きょうぎぶかい すず  
ゃなくて、ただここに結果報告とかだけじゃなくて、進め方とかについても、やっぱりここで意見を  
けっかほうこく すず かた いけん  
もらって、軌道修正していきたいというのがあります。Aグループ、Bグループ分けて表を作りか  
きどうしゆせい えー びー ひょう つく  
けていますが、私たちの目標はこの表を埋めることではない。私たち地域協議部会の目標は、地域  
わたし もくひょう ひょう う わたし ちいききょうぎぶかい もくひょう ちいき  
で解決したほうがよいと思われる課題を具体的に挙げていって、たくさんあるんです。たくさんある  
かいけつ おも かだい ぐたいき あ  
けれども、その中で、これだったら取りかかれるだろうし、これだったら多くの人が解決してほしい  
なか と おお ひと かいけつ  
と思っているというものを幾つか具体的に取上げて、それに対して動くことをしたい。  
おも いく ぐたいき と あ たい うご

やっている側の感覚として、これをやると下手すると延々と続いちゃうというのがあるんです。そ  
がわ かんかく へ た えんえん つづ  
の証拠にというか、今回、地域課題協議部会の構成員が相談支援事業所なので、それとは別に相談支援  
しょうこ こんかい ちいきかだいきょうぎぶかい こうせいいん そうだんしえんじぎょうしょ べつ そうだんしえん  
事業所連絡会というのもやっているんですが、それをやると、みんな延々と今ある困っていること、  
じぎょうしょれんらくかい えんえん いま こま  
たくさん聞いている何とかしてほしいということをしやべって止まらない。やっぱり常にあるので、  
き なん と つね  
表の困り事がどんどん広がっていくことはできるし、さっき何人かの方から聞いていて思った  
ひょう こま こと ひろ なんにん かた き おも  
んですけれども、例えば子どものことということに集中してフォーカスすると、もっとそのことが  
たと こ しゅうちゅう

ばあっと出てくると思うし、例えば高校卒業以降期のこととなると何か出てくるとか、何かそういうことはできる。

いま、いろんな相談支援事業所が集まっているので、何となく満遍なくしてみたりするんですけども、このまま続けていくと、ちょっと終わらないかもというのは2月の部会の中でも話をしていたので、今日、皆さんから意見をもらって、何かを作るためにちょっと集中しようということは2月のときにみんな一致したので、1か月単位ぐらいで集まって、ただこれを仕上げるんじゃない、来年度の夏ぐらいまでに少し具体化をする、案ぐらいまでに持って行って、それをもう1回ここで御提案したいなというふうに思っています。

【事務局】 白川さんに続いてですけども、もう1回グループの統合と再整理というのはやるんですが、その解決方法を考えるのは誰なんだろうねという話もしました。全部私たちではないんだろうと。それを、どういう方法でやるのかというのもまだ決めていないですし、課題の抽出の仕方を固めているわけじゃないんですね。そこも、やってみて、もう1回、再度同じ動きをやってみようかということまでは話し合っていますけれども、これでいいねというような感じにはまだなっていないので、皆さんの御経験の中から何かヒントになるようなことがあったらぜひ教えていただきたいなというふうに思います。

【議長】 今、この全体会で進め方について御意見がほしいということでもいいですか。なかなかちょっと難しかったと思うんですけども、どういうふうに考えているのか。

【構成員】 1つは、この表なり、このテーマでやっていくことが、自立支援協議会の要綱を見ると、

そうだしえん じゅうじつ む かだい せいりおよ たいおう かん  
相談支援の充実に向けた課題の整理及び対応に関することというのは1つあたりするんですね。あ

ちいき しゃかいしげん かいほつ かつよう かいぜん り  
るいは地域における社会資源の開発、活用、改善みたいなこともある。それはそれで理にかなって

おも たぶん こんかい ことし かたち そうだしえんごとぎょうしゃ  
るのかなと思うんです。あとは、多分、今回、今年からこういった形になったのは、相談支援事業者

みな ほちょう いしそつう はか ぎろん  
の皆さんの歩調をそろえようとか、もうちょっと意思疎通を図ろうみたいなそんな議論がたしかあっ

きおく へん つか こうりつ あ かお み  
たように記憶しているので、その辺が、こういうツールを使ってより効率が上がったとか、顔を見た

たが そうだん そうだんじぎょうしょどうし じゅうぶん いみ  
らすぐお互い相談できるね、相談事業所同士でみたいなことになると、十分これの意味はあるんじや

おも  
ないのかなと1つは思います。

たし つ つ す お ちくひょう  
ですから、確におっしゃるとおり、突き詰め過ぎると終わらないので、どこかで目標、スケジュー

かん さだ おも たと ほんとし いく かだい  
ール感というのを定めてみてはいかがかなと思います。例えば半年でまとめましょうとか、幾つか課題

で かいぜんたいかい あ たと あら ぶかい きそん なんねん  
が出たら1回全体会上げて、例えば新たに部会をつくっていくのか、あるいはもとの既存の何年か

まえ なん ぶかい よう そうだしえんじぎょうしょいがい じぎょうしょ あらき  
前にやった何とか部会とか、要するに相談支援事業所以外の事業所、さっき荒木さんもおっしゃって

ちいき しげん かさ じぎょう おも さんかく  
いましたけれども、いろんなその地域の資源とか重なる事業があると思うので、そういうところが参画

しく かんが おも  
できるような仕組みをつくるのかとか、もちろんそれもこれから考えることでもいいと思うんですけれ

かいせいり われわれ いけん い  
ども、そういうビジョンみたいなものを1回整理されると、我々としてもそこに意見が言いやすいと

そうじょうこうか おも  
か、いい相乗効果になるんじゃないのかなというふうに思いました。

こ だい じょう ふきゅうけいはつ し し つか  
あともう1個だけ、第2条に、普及啓発とありまして、さっき知らなかった、知らないから使えな

はなし なに ぜんたいかい なか ぶかい  
かったということ、やはりそれはもったいない話ですので、何かそれはこの全体会の中でも、部会の

なか も おも いけん  
中でもちょっとテーマとして持っていただけたらいいかなと思いました。意見だけです。

【議長】 ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

【構成員】 僭越ではあるんですけども、仕事で結構、問題解決とかをやっているもので、参考に  
なればと思うんですけども、今、昨年度、令和6年度でここまでまとめ上げているので、取りあえ

ずはここから広げないで、今挙がっているものに対して注力していくのがいいのかなと思いました。

あと、頻度を上げるというのもそうなんですけれども、皆さん、相談支援の方でお忙しいんだらう

と思うんですけども、多分これを話し合うのに1回2時間だと、話し始めて盛り上がってきたら時間

が終わってしまっているんじゃないかと思うので、もっと腰を落ち着けて、例えば1日は長いかもしれ

ないんですけども、せめて4時間とか半日をちょっと詰めて、月1か月2ぐらいではあっと片づ

けてしまうというほうが、もしかしたらまとまるのかなと思いました。

あと、優先順位づけとかもやっていく際して、ある程度事業所さんでというのが問題かと思っ

ているもの、例えばトップ1から5を挙げてもらって、幾つかの事業所さんから挙げてきたのに重み

づけをして、その点数が高いものから優先順位をつけていくとか、多分こういう問題って、困ってい

ることを出したら本当にいっぱい出てくると思うんです。私も経験上、いろいろ細かいこととかあ

りますけれども、なので、今見えているところで取りあえずの優先順位、今のメンバーで優先順位が

高いと思っていることを、それで、比較的手のつけやすいところから一歩ずつちょっとでもいいから

解決というのが、そういうアプローチでやるのがいいんじゃないかなと思いました。

長くなりましたが、以上です。

【議長】 ありがとうございます。具体的に分かりやすかったです。

【構成員】 私は教育の話なので、福祉のことは私は専門ではないんですけども、先ほど大久保  
さんがお話しされた優先順位のつけ方というのがあって、見させていただく中で、多分できること、  
できないことがやっぱりあるかなと思っていて、教育の視点で見ると、例えばBの7番のところ、立川  
学園の敷地の問題からというところとか、敷地の問題は多分どうにもできないと思うんです。もとも  
と土地を買ってくれとかと東京都に言うわけにもいかないし、多分これは解決はできないと思うんで  
すね。立川学園もそうですし、武蔵台さんも、敷地の中には車を止めないでくださいという話があ  
って、近隣の駐車場を借りなければならないとか、そういう問題があって、そのあたりは多分改善  
はなかなか難しいかなというふうに、私が知っている知識の中でいうとそういったところがあるん  
ですけども、ただ、かといってということも当然あると思いますし、いろいろ分けてくると、環境  
を変えれば何とかなるという問題と、人のマインドを変えてくるところ。  
人のマインドも見ると2つあるかなと思っていて、1つは、外の方のマインド。要するに、例えば  
バスに乗ったときに舌打ちされたというのは、多分これは啓発の話だと思っんです。誰もがというこ  
ろだし、ただ、もう1つ例えばAグループの9番のヘルパーが定着しないというのは、賃金の話な  
のか、それともそのヘルパーさんがいらっしゃる組織の問題なのか、それも1つの視点で見たらマイ  
ンドというふうになると思うんですね。内部的なマインドの話だったりとか、あとはお金があれば  
解決できるものなのか、ただ、市の予算はやっぱり予算を立ててやっているところと、市の財政状況  
もあるので、その難しさもあると思うので、切り口を横でやっていくのももちろんいいと思うんで  
すけれども、例えば優先順位をつけるところで、これは環境はどうにもならないよね、土地を買わな

いと立川学園さんは絶対この問題が解決できないんじゃないかというところ。ただ、人の心を変え

という取組は、教育の話なのか、普及啓発なのかという視点でも、多分こういったものというのは、

今すぐにでもやろうと思えばできるところ。もしかするとそういうような視点で考えていくというの

は、1つあるかなと、私は見ているところがあります。

ただ、福祉の話になってくるとどうしてもお金がひもついてくるところが非常に多くなるのかなと

思っ、お金イコールそこに人がひもづくという話なので、その難しさは非常にあるかなという

のが、教育だと、どちらかというとお金よりはマインドのほうを変えていきたいと思いますかというこ

ろがあるので、その難しさはやっぱりこの話合いの中で、皆さんが案を出して、具体的に実現の難

しさというところはそこに行き着いてしまうかなという感じが私にはあります。

【議長】 ありがとうございます。とても参考になるような御意見が出ていて、これが全体会でやる

べきところかなと思っ、今聞いていました。

ほかの方はいかがでしょうか。

【構成員】 私、この表を、まずは相談支援の皆さんが集まって意見交換をしっかりとされている

ということがすごく大事だなと思っました。少し先を見ると、難しい事例、対応のこと、難しい当事者

の問題もありますし、家族の問題も、相談支援事業所が連携を組んで基幹型みたいになって解決して

いけるんだという力を担っていく最初の1歩じゃないかなと思っるので、そこはぜひ集まって、難し

さとか課題をどうやっていくのかというところは、続けていただけたらと思っております。

ただ、おっしゃるように、この表に集中すると大変なことになりますし、さっきの藤田さんから

も御意見をいただきましたけれども、やはり困っているところが、一面的に見ると、ヘルパー不足と  
いうことなんだけれども、いやいや、ヘルパーを使うときの利用者教育が足りなかったんじゃないか  
とか、人を確保するために、国立に空き家がたくさんあるというふうに言われているので、ヘルパー  
になる人がいたら国立に住めるんだよみたいな斬新な政策を打っていくのはどうだろうかという提案  
をしていくとか、1つの事例で困ったというのは、この人がこんなことでこんな暮らしになって、  
ヘルパーがないんだけれどもどうだろうかというのを、相談支援の方で、これこそ市の課題じゃな  
いかというのを事例として出していただいて、いろんな切り口でサポートできないかなというのを  
検討するのがこちらの場なのか、また、必要であればオブザーバーを呼べたりするんですよね、自立  
支援協議会は。だから、住宅を貸している人を呼んでみて、いい人を探してきて呼んでみて、そこに  
つながりをつけて解決の道を探っていくとか、そういうのも協議会の協議の場というのをうまく使  
うと、国立らしい仕組みができるんじゃないかと考えますと、この課題が集約されて本当に困っ  
ている事例、この事例なんじゃないかなとセレクトしてもらって、2人、3人出していただいて、今後ち  
よっとこういう切り口でやれないかなという意見交換ができるといいかなって思っているのが1つで  
す。

もう1つは、私たち保健所で、はざまというか、誰もやってくれないことを行政だからやりまし  
ょうということでやることも時々あるんです。お買物に行ってきたと一言いわれて、保健師です  
けれどもみたいな。誰かがやってくれることで、また障がい当事者の方がそういう声を上げていただ  
くことで、何かうまくいったんじゃないこの働きかけみたいのがあって、それを逆に町に広げるほ

うが、こういう好事例があったんだよみたいところで、それは1人しかいないんだけど、10人  
やったら政策になるんじゃないのみたいところがあれば、それを逆に拾っていただいて、どうして  
そういうふうにできたのかなというのも、国立市らしいキーパーソンがいらっしゃるんじゃない  
ないかなと思っています。

なので、この表はこのままで、もっとエピソードというか、集約されているだろうなという課題を  
肌で感じられるようなものを少し拾っていただいて、また事業者さんでディスカッションしていただ  
いたり、この場に持ってきていただいたり、オブザーバーを入れたりとかという仕組みで、少し切り  
口を変えて考えていったらどうかと思います。

【議長】 ありがとうございます。いろいろな御意見があると思います。藤田さんいかがでしょう。

【構成員】 先ほどもちょっと触れたんですけど、やっぱり困っている御本人が、どうして我々が  
サポートする立場でやってあげる、やってあげるというんじゃなくて、どういうサポートならば一番  
適切なんだろうということに、みんながこれはそうだよねというふうに1つのまとまった考え方、あ  
るいはその方法があったら、それはこちらの課題にも同じことが結びつくよねというふうに、ちょっ  
とフローチャートじゃないですけども、この方法はこの方法とほぼ一緒だよねというような、そん  
な整理の仕方でもいいのかなというふうに、これをびっしりと言葉で埋めるよりは、そんなこともち  
よっと考えてもいいのかなという気がしました。

それと、ちょっとやっぱり家族支援といったらとても奥の深い話で、実は私の孫が国立市民なん  
ですけども、やっぱり不登校でいろいろと苦しんでいて、私の娘、母親である娘が、やっぱり

せいしんてき ふあんてい しゃぎょう かた せわ ほんにん いばしょ  
精神的に不安定になったんですね。そうしたときに、社協の方のお世話になって、本人はその居場所

があってよかったなということがあるし、それは当人はいいいんですけれども、家族の支援をする、う

ちの娘の支援を、親の私じゃなくて違う第三者がそれに対してカウンセリングをするというような

ことを、たまたま私の後輩がカウンセラーだったのでそれができたんですけれども、こういうふうな

ケースのときにはこういうアプローチ、こんなアプローチ、こっちのアプローチもあるよねというよ

うなことが、1つの家族支援というところでもいろいろ出てくるかなというふうに思って、そうする

と非常に深い問題のものがちょっと整理されるかもしれないという気がします。

ざっぱく い かた もう わけ おも  
雑駁な言い方で申し訳ないんですけれども、そんなふうなことを思いました。

【議長】 ありがとうございます。それでは、まだ御発言のない石原さん、お願いしてよろしいで  
しょうか。

【構成員】 何となく皆さんから、いろいろこれからのやり方だとかで意見をお伺いして、やっ

ぱりせかくここまで抽出していただいているということが、形にはなったほうがいいのか

なというのは思いました。前回というか、前に自立支援協議会で、いろいろ仕事部会のほうで私はい

たんですけれども、全く今度は違う切り口でいろいろできそうなので、ちょっと期待もさせていただ

きながら聞かせていただきました。

私は、B型とか生活介護で、本当に幾つかの悩みがたくさんやっぱり出てきていて、職員の悩み

もあったりとか、当事者さんの悩みもあったり、それこそ相談支援の方といろいろ悩みながら、親御さ

んとも話をしたりとか、いろんなところにあれもこれもとやっぱり思っていて、いつも結果がまだ出

ず、特に親御さんの高齡化とか、あと、総合支援法になって、国立市内じゃなくて他市からいっぱい

受けているので、半数近く他市の方がいたりすると、もう国立だけの問題じゃないんですね。だから、

今、自分の中で、国立かと思いつながら悩んだりとか、他市もこういうふうにいる動いてくれない

と絶対解決はできないなんて、ちょっと漠然と思いつながら聞かせていただきました。

いろんなところへ話が行ってしまつて、悩みがたふさん、あれはこれだなんて思いつながら私はい聞かせていただきました。

【構成員】 実は、私は地域課題協議部会のほうも兼務してはいて、この表をまさにつくつてい

たほうなので、なかなか言いつらくてちょっと静かにしてはいたんですけども、いろいろな御意見を

いただいて、なるほどなど、確かにこれを作つていたときには、付箋をみんなでその場でわあつと書い

て、ホワイトボードに貼つて、それをグルーピングしてとすごく時間をかけてはいたんですけども、

確かに大久保さんが言つたように、2時間では、本当に温まつてきたところで終わつちゃうぐらいな

感じだったので、そうだよな、もっと腰を落ち着けてはやらなきゃいけなかつたなとか、ケースを深め

るといふのも、本当にそういう、そこで皆さんの専門性を發揮して、マインドマップみたいにつなげ

ていくと面白いものができるんじゃないかな、ビジュアル化してやるのもいいんじゃないかなという

のも非常に参考になりました。

私自身は、児童をやつてはいて、成人の方のお話を聞いたときにもう全然、課題の深刻さが全然

違つたので、そこで私は皆さん相談支援事業所の大変さが身にしみてはいたんですけども、ただ、

やっぱりスケジュール感、アドバイスいただいたように、やっぱり私たちはもっとスピード感を持つ

てやるべきだなというの<sup>おも</sup>も思いました。なので、さあ、やりま<sup>かお</sup>しょうと顔<sup>あ</sup>を合<sup>あ</sup>わせてやるよりは、宿<sup>しゆくだい</sup>題

形式<sup>けいしき</sup>で、ま<sup>わ</sup>ず分<sup>はんい</sup>かる範<sup>う</sup>囲で埋<sup>う</sup>めて、デー<sup>い</sup>タをま<sup>い</sup>とめてお<sup>い</sup>てもら<sup>ら</sup>って、そ<sup>い</sup>こから一<sup>い</sup>気<sup>き</sup>にス<sup>い</sup>タートしま

しょうという<sup>かたち</sup>形<sup>か</sup>で、そ<sup>かん</sup>うい<sup>ふ</sup>うスピード感<sup>ふ</sup>も部<sup>い</sup>会<sup>かい</sup>のほう<sup>い</sup>ではや<sup>い</sup>って、さ<sup>す</sup>らにど<sup>す</sup>んどん進<sup>すす</sup>めていくという

必要<sup>ひつようせい</sup>性を、今<sup>き</sup>日<sup>じつ</sup>皆<sup>みな</sup>さん<sup>い</sup>の意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>を聞<sup>き</sup>いて痛<sup>つう</sup>感<sup>かん</sup>したとこ<sup>こ</sup>ろです。今<sup>こん</sup>後<sup>ご</sup>とも、ま<sup>ね</sup>たよろしくお願<sup>ね</sup>いします。

【議長<sup>ぎちやう</sup>】 ありがとうございます。

そろそろお時間<sup>じかん</sup>になります<sup>い</sup>ますが、ち<sup>い</sup>よっとこれ<sup>い</sup>だけは言<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>いかな<sup>い</sup>というこ<sup>い</sup>とが<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>りましたら、ぜ<sup>い</sup>ひ

お願<sup>ね</sup>いいた<sup>い</sup>します。

【構<sup>こう</sup>成<sup>せい</sup>員<sup>いん</sup>】 私<sup>わたし</sup>、幼<sup>よう</sup>少<sup>しょう</sup>期<sup>き</sup>から、親<sup>おや</sup>の暴<sup>ぼう</sup>力<sup>りよく</sup>があ<sup>あ</sup>りま<sup>あ</sup>して、よ<sup>よ</sup>く母<sup>はは</sup>と一<sup>いっ</sup>緒<sup>しょ</sup>に市<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>所<sup>しょ</sup>に行<sup>い</sup>って相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>したり、

あ<sup>あ</sup>と、今<sup>いま</sup>社<sup>しゃ</sup>協<sup>ぎょう</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>るとこ<sup>い</sup>ろに行<sup>い</sup>っていま<sup>い</sup>ました。結<sup>けつ</sup>局<sup>きよく</sup>、解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>はしな<sup>い</sup>か<sup>い</sup>つた<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>けれど<sup>い</sup>も、こ<sup>こ</sup>うい<sup>こ</sup>う

ふう<sup>う</sup>に動<sup>か</sup>いてく<sup>か</sup>れてい<sup>い</sup>る方<sup>か</sup>た<sup>た</sup>が<sup>い</sup>て、知<sup>ち</sup>恵<sup>え</sup>を絞<sup>しぼ</sup>って<sup>い</sup>く<sup>い</sup>ださ<sup>い</sup>る方<sup>か</sup>た<sup>た</sup>が<sup>い</sup>る<sup>い</sup>るとい<sup>い</sup>うの<sup>い</sup>は、そ<sup>そ</sup>れを<sup>い</sup>その<sup>い</sup>当<sup>とう</sup>時<sup>じ</sup>は

し<sup>し</sup>知<sup>し</sup>るこ<sup>こ</sup>とは<sup>い</sup>でき<sup>い</sup>な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>つた<sup>い</sup>です<sup>い</sup>けれど<sup>い</sup>も、知<sup>し</sup>ると<sup>い</sup>す<sup>す</sup>ぐ<sup>す</sup>く救<sup>きう</sup>われ<sup>れ</sup>る<sup>い</sup>ので、ぜ<sup>い</sup>ひ抽<sup>ちゅう</sup>出<sup>しゅつ</sup>だけ<sup>い</sup>でも本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>な

作<sup>さ</sup>業<sup>ぎょう</sup>だ<sup>い</sup>と思<sup>お</sup>う<sup>い</sup>ので感<sup>かん</sup>謝<sup>しゃ</sup>しま<sup>い</sup>すし、こ<sup>こ</sup>れを<sup>い</sup>ぜ<sup>い</sup>ひ続<sup>つづ</sup>けて<sup>い</sup>た<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>たい<sup>い</sup>と思<sup>お</sup>いま<sup>い</sup>した。

【議長<sup>ぎちやう</sup>】 ありがとうございます。皆<sup>みな</sup>さんよろ<sup>い</sup>しい<sup>い</sup>でし<sup>い</sup>ょうか。大<sup>だい</sup>丈<sup>じやう</sup>夫<sup>ぶ</sup>でし<sup>い</sup>ょうか。

それ<sup>い</sup>では、次<sup>じ</sup>回<sup>かい</sup>の全<sup>ぜん</sup>体<sup>たい</sup>会<sup>かい</sup>につ<sup>い</sup>ての<sup>い</sup>ス<sup>い</sup>ケ<sup>い</sup>ジュー<sup>い</sup>ル<sup>い</sup>感<sup>かん</sup>とい<sup>い</sup>うお<sup>い</sup>話<sup>わ</sup>が<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>りました<sup>い</sup>けれど<sup>い</sup>も、そ<sup>そ</sup>の<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>たり

の<sup>い</sup>説<sup>せつ</sup>明<sup>めい</sup>を<sup>い</sup>事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>局<sup>きよく</sup>か<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>って<sup>い</sup>終<sup>しゆう</sup>わ<sup>わ</sup>りに<sup>い</sup>し<sup>い</sup>たい<sup>い</sup>と思<sup>お</sup>いま<sup>い</sup>す。

【事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>局<sup>きよく</sup>】 皆<sup>みな</sup>様<sup>さま</sup>、約<sup>やく</sup>2<sup>に</sup>時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>、長<sup>なが</sup>い<sup>い</sup>よう<sup>い</sup>で短<sup>みじか</sup>か<sup>い</sup>つた<sup>い</sup>かと思<sup>お</sup>う<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>けれど<sup>い</sup>も、い<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>な<sup>い</sup>御<sup>ご</sup>意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>を<sup>い</sup>い

ただ<sup>い</sup>き、あ<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>とう<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>ざ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ました。今<sup>きょう</sup>日<sup>じつ</sup>い<sup>い</sup>た<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ました<sup>い</sup>御<sup>ご</sup>意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>は、我<sup>われ</sup>々<sup>われ</sup>事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>局<sup>きよく</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>でも<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>です<sup>い</sup>し、

地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>課<sup>か</sup>題<sup>だい</sup>協<sup>ぎょう</sup>議<sup>ぎ</sup>部<sup>ぶ</sup>会<sup>かい</sup>に<sup>い</sup>持<sup>も</sup>ち<sup>い</sup>帰<sup>かえ</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>し<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>かり<sup>い</sup>次<sup>つぎ</sup>に<sup>い</sup>生<sup>い</sup>か<sup>い</sup>して<sup>い</sup>い<sup>い</sup>きたい<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>ふう<sup>い</sup>に<sup>い</sup>思<sup>お</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>お<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ます。

今後のスケジュール感なんですけれども、令和7年度上半期は月に1回、地域課題協議部会の開催を

目標に頑張っ<sup>もくひょう</sup>てやっ<sup>がんば</sup>ていきます。全体会が、前回の全体会<sup>ぜんたいかい</sup>のときにも前議長<sup>ぜんぎちょう</sup>からも御意見<sup>ごいけん</sup>があったん

ですけれども、国立は1年に1回しか全体会<sup>ぜんたいかい</sup>がないということでちょっと少ないと、もう少し全体会<sup>ぜんたいかい</sup>の

場<sup>ば</sup>を増やすべきだ<sup>ふ</sup>というような御意見<sup>ごいけん</sup>をいただきました。令和6年度<sup>れいわねんど</sup>についても、10月<sup>がつ</sup>と3月<sup>がつ</sup>とい

うところで一応<sup>いちおう</sup>2回<sup>かい</sup>を目標<sup>もくひょう</sup>に頑張っ<sup>がんば</sup>てやっ<sup>て</sup>てきたんですけれども、なかなか調整<sup>ちょうせい</sup>がつかなくて、結果<sup>けっか</sup>

この3月<sup>がつ</sup>だけで終わっ<sup>お</sup>てしまった<sup>かたち</sup>という形<sup>かたち</sup>にはなりません。

ただ、今回<sup>こんかい</sup>、本当<sup>ほんとう</sup>にいろん<sup>ごいけん</sup>な御意見<sup>ごいけん</sup>をいただ<sup>うえ</sup>いた上<sup>かたち</sup>で、いい形<sup>れいわ</sup>で令和7年度<sup>ねんど</sup>、スタート<sup>き</sup>を切れるか

と思<sup>おも</sup>いますので、また、令和7年度<sup>れいわねんど</sup>の10月<sup>がつ</sup>に1回<sup>かい</sup>、そして3月<sup>がつ</sup>に1回<sup>かい</sup>というところを、今<sup>こんど</sup>度は確<sup>かくじつ</sup>実<sup>じつ</sup>に

できるように我々<sup>われわれ</sup>事務局<sup>じむきょく</sup>のほうも一丸<sup>いちがん</sup>となっ<sup>きょうりょく</sup>て協<sup>おも</sup>力<sup>りき</sup>してやっ<sup>ぜんたいかい</sup>ていきたいと思<sup>おも</sup>いますので、全体会<sup>ぜんたいかい</sup>の

皆様<sup>みなさま</sup>には、また今後<sup>こんご</sup>のビジョン<sup>かん</sup>だっ<sup>きょう</sup>たりとかスケジュール感<sup>ほんとう</sup>、今日<sup>けふ</sup>は本当<sup>ほんとう</sup>にいろん<sup>しゅくだい</sup>な宿題<sup>しゅくだい</sup>をいただ

きました。それ<sup>ごていじ</sup>について御提<sup>じゆんび</sup>示<sup>し</sup>できるように準備<sup>ひ</sup>してやっ<sup>つづ</sup>てまいりますので、引<sup>ひ</sup>き続<sup>つづ</sup>き御支<sup>ごしえん</sup>援<sup>えん</sup>のほどい

ただ<sup>おも</sup>ければと思<sup>おも</sup>いますので、よろしくお願<sup>ねが</sup>いいたします。

では、ちよっ<sup>じかん</sup>とお時<sup>はや</sup>間は早<sup>れいわ</sup>いんですけれども、令和6年度<sup>ねんど</sup>の全体会<sup>ぜんたいかい</sup>をこれ<sup>し</sup>で締<sup>し</sup>めさせ<sup>し</sup>ていただ

いた<sup>おも</sup>います。

今日<sup>きょう</sup>はお忙<sup>いそが</sup>しいところお集<sup>あつ</sup>まり<sup>あつ</sup>いただき<sup>あつ</sup>ありが<sup>あつ</sup>とうござ<sup>あつ</sup>いました。また引<sup>ひ</sup>き続<sup>つづ</sup>きよろしくお願<sup>ねが</sup>いし

ます。